

## 平成 24 年度新規事業の実施体制について

### 1. 気候変動リスク情報創生プログラム（詳細：別紙 1）

公募期間：平成 24 年 3 月 21 日（水）～4 月 20 日（金）

審査評価会による審査の結果、以下の通り採択課題を決定した。

#### A. 領域応募型

領域代表者	主管機関	研究課題名
木本 昌秀	東京大学	直面する地球環境変動の予測と診断
河宮 未知生	海洋研究開発機構	安定化目標値設定に資する気候変動予測 気候変動研究の推進・連携体制の構築
高藪 出	筑波大学	気候変動リスク情報の基盤技術開発
中北 英一	京都大学	課題対応型の精密な影響評価

#### B. 単一課題応募型

課題代表者	課題代表機関	研究課題名
筒井 純一	電力中央研究所	安定化目標値設定に向けた社会経済シナリオに 関する検討・情報収集
佐藤 正樹	海洋研究開発機構	気候感度に関する不確実性の低減化
山中 康裕	北海道大学	気候変動予測情報を活用した、将来の生態系・ 生物多様性に関する影響及びその不確実性評価研究
熊谷 朝臣	名古屋大学	気候変動予測情報を活用した、将来の生態系・ 生物多様性に関する影響及びその不確実性評価研究
芳村 圭	東京大学	アンサンブル予測技術と、予測実験の最適化手法の 開発
坪木 和久	名古屋大学	低頻度であるが影響の大きい気候関連事象に関する 情報の創出
田中 茂信	土木研究所	気候変動に伴う自然ハザードの変化予測と不確実性評価、 自然災害に関する社会・経済的影響評価研究

### 2. 東北復興次世代エネルギープロジェクト

#### (1) 革新的エネルギー研究開発拠点形成（詳細：別紙 2）

公募期間：平成 24 年 3 月 8 日（木）～3 月 29 日（木）

選定委員会による審査の結果、研究総括及び拠点形成支援機関として、以下の者を決定した。

#### A. 研究総括（研究課題）

小長井 誠 東京工業大学大学院理工学研究科教授（ナノワイヤー太陽電池）

#### B. 拠点形成支援機関

独立行政法人 科学技術振興機構

#### (2) 東北復興のためのクリーンエネルギー研究開発推進

公募期間：平成 24 年 5 月 30 日（水）～6 月 29 日（金）

採択課題の決定：7 月中（予定）

## 【事業概要】

気候変動に関する生起確率や精密な影響評価の技術を確立し、気候変動をリスクとしてマネジメントする際に必須となる基盤的情報の創出を目指す。また、さらなる気候変動予測の不確実性の低減や社会経済シナリオ研究との連携により、気候の安定化目標の科学的な評価を推進し、気候変動リスクに関して多角的な評価を実施する。

本プログラムにおいては、「革新プログラム」の成果を発展的に継承し、世界最高水準の気候変動リスクに関する研究を、5つの研究領域テーマ(A.「直面する地球環境変動の予測と診断」、B.「安定化目標値設定に資する気候変動予測」、C.「気候変動リスク情報の基盤技術開発」、D.「課題対応型の精密な影響評価」、E.「気候変動研究の推進・連携体制の構築」)について有機的に連携させながら実施する。

## 【実施体制】

### 諮問委員会(Advisory Board) (研究計画等の承認・評価)

主査：安井 至(製品評価技術基盤機構)

江守 正多(国立環境研究所)、関 正雄(損保ジャパン)、高村 ゆかり(名古屋大学)、新野 宏(東京大学大気海洋研究所)、松田 裕之(横浜国立大学)、三村 信男(茨城大学)、安岡 善文(東京大学名誉教授)



PD 住 明正(東京大学) (プログラム全体を効率的・効果的に運営するための全体調整)

PO <PD兼任>

PO 時岡 達志  
(海洋研究開発機構)

PO 木村富士男  
(海洋研究開発機構)

PO 原澤 英夫  
(国立環境研究所)

### 【領域テーマA】 直面する地球環境 変動の予測と診断

- ・ 直面する気候変動に関する要因の特定とメカニズムの解明
- ・ 地球環境変動研究を支える統合的予測システムの開発

領域代表者  
木本 昌秀

〔主管機関  
東京大学大気海洋研究所〕

主な参画機関  
国立環境研究所  
海洋研究開発機構 等

### 【領域テーマB】 安定化目標値設定に 資する気候変動予測

- ・ 多彩なシナリオを踏まえた長期的な地球環境変動の予測
- ・ 大規模な気候変動・変化に関する科学的知見の創出

領域代表者  
河宮 未知生

〔主管機関  
海洋研究開発機構〕

主な参画機関  
電力中央研究所  
滋賀県立大学 等

### 【領域テーマC】 気候変動リスク情報 の基盤技術開発

- ・ 気候変動リスクの評価の基盤となる確率予測情報の創出
- ・ 高度利活用(影響評価研究等)を支える標準的気候シナリオの整備

領域代表者  
高薮 出

〔主管機関  
筑波大学〕

主な参画機関  
防災科学技術研究所  
統計数理研究所  
東京大学  
名古屋大学 等

### 【領域テーマD】 課題対応型の精密 な影響評価

- ・ 自然災害に関する気候変動リスク情報の創出
- ・ 水資源に関する気候変動リスク情報の創出
- ・ 生態系・生物多様性に関する気候変動リスク情報の創出

領域代表者  
中北 英一

〔主管機関  
京都大学防災研究所〕

主な参画機関  
東京大学  
東京工業大学  
農業・食品産業技術総合研究機構  
東北大学  
北海道大学  
国立環境研究所  
名古屋大学  
土木研究所 等

### 【領域テーマE】 気候変動研究の推進・連携体制の構築

領域代表者  
河宮 未知生

〔主管機関  
海洋研究開発機構〕

- ・ 気候変動にかかわる研究を効果的に推進するための支援の実施
  - 気候変動リスク情報の関係者間における共通認識の醸成に向けた取り組みの実施
  - 気候変動リスクに関する情報の提供・助言の実施に必要な体制の整備
  - 本プログラムの実施・アウトリーチ等にかかわる業務の支援

# 革新的エネルギー研究開発拠点形成

- 復興基本方針に記載された再生可能エネルギーに関わる開かれた世界最先端の研究拠点を福島県に形成するため、経済産業省と連携し、世界最先端の研究開発プロジェクトを推進。
- 経済産業省が新たに福島県に整備する産業技術総合研究所の再生可能エネルギー研究センターを活用。
- 超高効率太陽電池に関する基礎から実用化までの研究開発を一体的に推進し、世界トップクラスの再生可能エネルギー研究拠点の構築を目指す。また、優れた研究環境(施設・設備)により、国内外から意欲と能力のある研究者を結集する。

